

H F H J News Letter



33 2014 December

ハビタット・ジャパン ニュースレター
第33号 2014年12月発行

活動の現場から

企業の社会貢献は「CSR」から「CSV」へ

宮城ホームリペア支援 広島土砂災害支援





ホームリペア支援

宮城県美里町にお姑さんと二人で暮らす佐々木恵子さん(67歳)は、業者による工事とボランティアによる施工を通して、震災で損傷を受けた自宅の修繕を完了することができました。7月中旬から9月上旬まで実施したボランティア施工では、60名ものボランティアが作業に携わり、雨樋の取り替え、外壁・内壁のヒビ埋め、塗装、お風呂場のタイル補修など広範囲の修繕に汗を流しました。

「築52年のもともと古い家が震災に遭い、『半壊』と判定されました。直すべきところはあちこちにあるのに、修繕費用の目処が立てられず途方に暮れていました。」町役場にも住宅再建の相談に行ったそうですが、対応するのは難しいと言われたそうです。諦めて帰ろうとした際、役場でたまたま見つけたのがハビタットの住宅修繕のチラシ。「まさかここまで修繕を手がけてくれるなんて思ってもいませんでした。たくさんのボランティアさんたちに来ていただいて、とても励まされました。」
「ハビタットと関わるようになってから、気持ちが前向きになった。」と語る恵子さん。ようやく安心できる居住空間と笑顔を取り戻すことができました。



ボランティアと一緒に障子貼りを行う恵子さん。

新しく塗装してもらった黄色の郵便ポストが幸せを運んでくれそうです。



Campus Chapter



広島土砂災害

8月19日夜から20日にかけて降った豪雨の影響で、広島県広島市で土砂災害が発生しました。ハビタット・ジャパンは、初動調査のため、東北オフィスよりスタッフ一名を現地に派遣しました。スタッフが現地入りしたのは、8月25日。被災をした住宅街に入ると、道路上に掻き出されて乾いた泥が、風が吹くたびに舞い上がりました。山に近づくほど、泥の量が増していき、水路が土砂で埋まったため水がはげず、浸水している家屋も見られました。また、多くの方々が、避難所で生活をしていました。

ハビタット・ジャパンは、初動調査の結果、災害が局所的であったため、地元が中心となって長い目で実施する支援のあたりが最適と考えました。そこで、広島市の学生支部Groo'veによる被災者支援活動へのサポートを通して、地域に密着した支援に貢献することを決定しました。東北復興支援に従事してきたスタッフを現地に派遣し、被災地支援のノウハウを伝えることで、学生支部による被災地支援活動の態勢をサポートしています。



Groo'veは、広島土砂災害の発生直後から、ハビタット・ジャパンと連携し、支援活動を行っています。Groo'veのメンバーの中にも、自らが被災したり、友人や知人が被災した学生が大勢います。住居の大切さを訴えるハビタット・ジャパンの一員として、そして広島在住の学生として、どのような支援をしていけばいいのか模索する彼らは、日々被災者の方々のニーズを考えながら、主体的に支援活動を行っています。



企業の社会貢献は「CSR」から「CSV」へ

一般的に「CSR」(Corporate Social Responsibility)とは、企業の社会的責任と訳されるように、環境への配慮や地域への奉仕だけでなく、労働慣行や消費者対策も含めて、企業が社会の一員として果たすべき責任のことです。近年では日本でも、このように社会的責任を果たすことに加えて、より直接的に社会の課題に取り組むことでその企業の社会的意義が高まる「CSV」(Creating Shared Value、共通価値の創出)を目的にした活動が増えています。



グローバルに広がる活動

日産自動車

日産自動車は、ハビタットと複数の国で協働するグローバル・パートナーのひとつです。6ヶ国において、各地のハビタットと日産事業所がそれぞれ地域での活動を協力して行っています。2011年以降は、日本でもハビタット・ジャパンの東北復興支援事業の一環として、のべ120名の社員ボランティアが活動に参加しました。自動車業界は、住居問題とは一見関係がなさそうですが、その接点は、日産が事業展開し、ハビタットが活動する世界各国の地域社会であり、またそこで暮らす人々です。企業とNGOがお互いの強みを活かすことで、地域の特異性に配慮した課題解決に取り組みます。



VOICE

「自動車メーカーとして魅力ある製品やサービスを世界中の人々に提供することに加えて、コミュニティの一員として主体的に社会にかかわり、貢献することは企業の重要な使命です。企業がさまざまな資源を地域社会に提供し、コミュニティの活性化や課題の解決に積極的に参画することは、企業市民としての責務を果たすというだけでなく、企業活動にとっても有益であり、より良い事業環境や持続的に成長する市場を生み出すことにつながります。」

CSR部 井上靖子さん



物品提供による支援

ダウ・ケミカル日本

グローバル化学メーカーのダウは、ハビタットと30年以上にもおよぶ協力関係にあり、これまで全世界で各国の社員ボランティアによる住宅建築と支援事業への資金提供に加え、自社製品の寄贈による協力を行っています。日本でも、岩手県大船渡市で行ったセルフビルド支援事業において、自社製の断熱材を提供することで東北の冬を快適に過ごせる家の建築に貢献しました。また、同じ事業に社員ボランティアが関わり、共に作業をすることで地域とのつながりも醸成するという多角的な活動を行っています。企業が持つ技術やノウハウが結集した製品を支援に活かすことで、家の性能を上げたり事業効率を向上させたりと、ハビタットが行う住宅支援事業の発展に貢献しています。



VOICE

「持続可能な社会の発展に貢献することはダウの事業活動の根幹であり、ハビタットとのパートナーシップを通じて、ダウの製品・サービスを生かした貢献ができたことは、大きな意味を持つことだと思います。セルフビルド支援活動では、建築のプロでない人でも現地の役に立つことができると同時に、参加者どうしのチームワークが育まれました。素晴らしい機会をいただき感謝しています。」

広報 沢登理永さん



複合的なパートナーシップ

日本ヒルティ

ヒルティ財団を通じて各国のハビタットとの協働を推進しているヒルティグループ。国内では、岩手県大船渡市で行ったソーラーパネル設置事業において、その立案から実施までを支えるための費用を提供するとともに、事業形成にも日本法人の担当社員による参画、助言を通して知見の提供や関係企業の紹介を行いました。また、事業実施にあたっては、自社製品である電動工具の提供により作業の効率化を助け、社員によるボランティア活動には日本法人社長自ら参加するなど、ハビタットの活動を包括的に支えるパートナーとして提携しています。



VOICE

「このパートナーシップにおいて重要なのは、ハビタットとの理念と弊社（ヒルティグループ）の理念が非常に近いことです。最終的に支援する地域の生活水準や文化水準が上がるためのサポートであることで、一過性にとどまらず、活動自体も現地の人と一緒に行うスタンスは、とても素晴らしいと思います。中長期的に考えられた体制に共感していることが一緒に活動している理由です。」

社長室 上坂和代さん

社員ボランティア

スタンダードチャータード銀行

ハビタットを「グローバルレベルでの災害支援時のパートナー」として位置づけるスタンダードチャータード銀行は、東日本大震災発生直後、私たちが速やかに活動を始められるよう、世界中の社員から寄付金を募り支援金として提供した企業の一つ。事業詳細ではなく団体に対する信頼をもとにした素早い判断があつたことです。また、企業として社員には自分のスキルを活かせるボランティア活動を推奨しており、東北でも社員のボランティアチームを5回にわたってハビタットの活動に派遣しました。



VOICE

「当行がボランティア活動において特に推奨しているのがSkilled Based Volunteeringという点ですが、ハビタットの活動内容はこれにマッチしています。また被災地のほか貧困国でも、人種や宗教・国籍等に関係なく様々な人々へ支援を届けている点も、当行が事業を展開する主要地域の社会・経済・人々の長期的な成長・発展を目的にしていることと類似しています。今後もお互いのできることを模索していけたら嬉しく思います。」

広報部 兼 ブランド&マーケティング部
シニアマネージャー 浅野綾子さん

プロボノ

ゴールドマン・サックス

社員による社会貢献の取り組みを推進するゴールドマン・サックスは、日本ではハビタット・ジャパンとのパートナーシップを3年間にわたり継続しています。毎年行われる社員ボランティア活動の一環として、岩手県大船渡市の仮設商店街での建築作業、神奈川県大磯市での小児ホスピス施設修繕支援に続き、最近では若者の人材育成を目的とした研修・コーチングなど社員によるプロボノ支援に注力しています。社員が持つ知識やスキルを社会貢献に活かすことで、企業人だからこそできる支援へと支援事業のかたちを発展させることができます。



VOICE

「社員のスキルを活かしたプロボノとして行った今年の活動では、大学生と一緒にハビタットの活動を紹介し支援を募るためのプレゼンテーションを作る作業を行いました。普段の業務とは全く違う環境での作業を新鮮に感じた社員も多かったようです。『自由な発想に自分も刺激を受けた』という社員の声を聞いて、今後も企業としてこのような機会を社員に提供していくことが重要だと感じました。」

コーポレート・エンゲージメント
麻崎久美子さん

海外での企業パートナーとの連携

🏠 新規住宅市場の開拓

ハビタットの研究機関「Center for Innovation in Shelter and Finance」では、グローバル・パートナーの製薬会社バイエルと共同で、アジア地域のBOP層(低所得階層)における環境性能の高い住宅の供給と需要に関する調査を実施中。約1年をかけ、特にフィリピン、インド、インドネシア、バングラデシュで深刻化を続ける貧困住居問題の解決において活用できる環境技術、製品や住宅ソリューションの発見・開発をめざします。住宅建設そのものに加えて、土地の確保と権利、コミュニティレベルでの生活様式、住宅金融商品と規制、建材と設備の市場、環境技術分野の専門機関、他NGOや行政サービスなどバリューチェーン全体を見据えることで、各国における貧困と住宅セクターの課題をあぶり出し、より多くの人々への適切な住宅供給にむけた介入点を見つける試みです。



🛒 CRM

ハビタット発祥の地アメリカにはアフィリエイトと呼ばれる地域拠点が3,000以上、加えて世界80か国にある支部も地域拠点をもっており、それぞれのコミュニティに根ざした自立支援と住宅建築を行っています。ハビタットはその信頼とブランド力を広報に活用しています。特にアメリカでは、その一環として企業パートナーとコーズマーケティング (CRM) を行う例が増えています。グローバル・パートナーの家電メーカーWhirlpoolは、エネルギー消費率の低い家電購入に対し一定額を寄付するキャンペーンを行ったところ、アメリカ国内における年間セールスが17%向上したと発表。また最近では、サンフランシスコのゲーム開発会社Zyngaが新たな顧客層獲得に向けて家を建てる携帯アプリを開発し、ゲーム内購入の売り上げを寄付金とすることで社会貢献にも役立てています。

社会人としてできること (参加方法)

体験する

ハビタット・ジャパンのイベントや、個人で参加できる海外建築ボランティア「Japan Hope Builders」への参加を通じ、支援活動に参加するだけでなく、ハビタットの活動の輪に加わり、そこに集まる多様な背景の人々との出会いやスタッフとの交流を楽しむ社会人の方々が増えています。各種イベントや参加申込みに関する詳細はウェブで！

支える

イベントに参加できなくても、海外の支援地まで出かけられなくても、何かしたい…。そんなあなたには「ハウスサポーター」(賛助会員)がおすすめ。毎月1,000円からご支援いただくことができます。その気持ちがハビタットを通じて世界中の家族に届けられる様子を定期的にご報告いたします。イベント招待や参加費の割引など会員優待も！

伝える

あなたの経験を、家族、友人、一緒に働いている仲間に話してください。また、お勤め先等に募金箱を置いてくださる方、お勤め先のCSRご担当者をご紹介くださる方、社内でハビタット・スタッフによる講演を企画してくださる方や会場をご提供くださる方も大募集中！

ハビタットの活動に興味をお持ちの方は是非ご連絡ください。社会人として、また企業として、ハビタット・ジャパンと共にごできることについて、ハビタット・ジャパン(担当: 中川ミミ ▶ corporates@habitatjp.org)まで、お気軽にお問い合わせください。

自宅の宝探して、サポートしませんか？

機種変更して使わなくなった携帯電話、2円足りなくなった古い切手、使う機会のない外国のコイン、結婚式の引き出物、片方無くしたピアスなどお手元にありませんか？ハビタット・ジャパンは、ご自宅にあるそのような『お宝』を通してご支援いただける新たな取り組みを開始しました！みなさまの『お宝』が形を変えて、住まいを必要とする家族の『家』という宝物になります。

〈ご寄付いただけるお品物〉

携帯電話、スマホ、CD、DVD、本、ゲームソフト、コイン、図書券、テレホンカード、QUOカード、商品券、切手、中国切手、美術品、骨董品、懐かしのおもちゃ、鉄道模型、ブランド食器、洋酒、香水、カメラ、アクセサリー、ブランド品、貴金属など



今週末は、楽しみながら我が家で宝探し！

おたからや目黒山手通り店の『お宝エイド』という取り組みにハビタット・ジャパンは参加しています。皆さんの『お宝』が、ハビタットが支援する家族の『宝物』に変わります。ご協力をよろしくお願いいたします！

支援方法

「ハビタット支援」と伝票にご記入の上、ゆうパックの「着払い」で下記の住所にお荷物をお送りください。

集荷依頼

東京都23区内 0120-950-489
それ以外(日本国内) 0800-0800-111

送付先

〒153-0063 東京都目黒区目黒3-8-10おたからや目黒山手通り店
(03)5719-6665

※ゆうパック以外でも送付は可能ですが、その場合は着払いでお送りいただくことができません。ご了承ください。

今月の

ハビびと

ハビタット・ジャパンで活動する、熱き人々



大宮 真琴さん

広島CC
"Groove"メンバー



(写真左) 行宗さん
(写真右) 田中さん

8月20日の土砂災害で、今まで育ってきた街の風景が何もなくなくなりました。毎日通っていた道がなくなり、家がのみこまれ、全てが土砂に埋まりました。私の家には大きな被害はなかったものの、一瞬にして「日常生活」が消え、これからの生活が全く想像のつかないものになりました。

広島市安佐南区で生まれ育った私は、この町が本当に大好きです。自分の家族だけでなく、ご近所のお年寄りや、その他沢山のの人に育てられました。土砂災害から4日後には、スリランカで海外建築活動ボランティアに参加する予定でしたが、大好きな地元で起こった災害を前に、もっと自分の身近なところでしなければいけないことがあるのではないかと思います、参加をキャンセルして広島に残ることにしました。ハビタット・ジャパンのスタッフに被害の状況を説明したり、仲間と作業をしたり、自分にできることは全てやらせていただきました。学校が避難所となり授業ができない小学生を対象に、学習ボランティアもしました。ボランティアとして参加した私が、彼らに元気をもらってしまいました。土砂を片付けることも大切ですが、地域の生活を支

えるボランティアもとても大切だと感じました。

今回の災害で、沢山のボランティアの人に会いました。災害から1日たらずで駆けつけてきてくれた人もいました。「何かしたい」「何かしないと」という意気込みを持って来られるボランティアの方に元気をもらい、勇気付けられることも多々ありました。しかし、被災された方の中には、まだまだ復興に気持ちを向けることができない方、ボランティアという行為をしてもらうこと自体が申し訳ない、気を遣う、と距離を置かれる方もいました。

ボランティアに助けられる立場に置かれてみて、ボランティアが被災者の心に寄り添うことの難しさを強く感じました。

今回の土砂災害をきっかけに、ボランティアとは何かと考えましたが、一番先に思い浮かぶのは、あるボランティアの方がおっしゃった「困ったときはお互い様ですよ」という一言です。その言葉を忘れずに私も活動していきたいです。これから不安なこともあります、自分を育ててくれた町の役に少しでも立てるよう、何ができるか考えていきたいと思っています。

編集後記

色づいた木の葉も落ち始め、東京に本格的な冬が到来しました。外がどんなに寒くても、家に帰れば暖かく過ごせ、隙間風や雨漏りの心配もない。そんな「当たり前」の生活を送ることのできない家族が世界中に沢山います。そのことを考えると、私たちが持っているものに感謝したくなりますね。この季節、ハビタット・ジャパンは、助け合いの精神を大切に皆様と共に活動してまいります。